

2024年4月1日改定

## 『Antitled』執筆要項

### (1) 分量

表題、執筆者名、引用、参考文献などすべてを含めて、(i) 論文、(ii) 研究ノートの場合は32000字以内、(iv) 書評、(v) その他については12000字以内とする。(iii) 史料紹介については上限を定めないが、あまりに長大な場合は、削減もしくは分割掲載を求めることがある。

図・表・写真は文字数に含めない。

### (2) 書式・体裁

・原稿の書式・体裁は原則として以下のようにする。ただし (iii) 史料紹介・(v) その他の場合は執筆者と本誌編集委員会のあいだで協議のうえ、変更することができる(例えば、史料の性質に鑑み縦書きが適当な場合は、縦書きに変更することができる)。変更を希望する者は、投稿申し込み時にその旨記載すること。

・A4判・横書き・字40×35行とし、表題は左揃え・太字16ポイント、章タイトルは左揃え・太字12ポイント、節タイトルは10.5ポイント、本文・脚注・参考文献は左揃え10.5ポイントとする。

・英数字は半角とすること。

・執筆者名は原稿に記載しないこと。

・本文の前に章立てを記載すること。

・段落の始まりはインデントすること。

・原稿への図、表、写真の挿入は執筆者自身が行うこと。コピーライトについては執筆者の責任において得るものとする。

・査読の公平性を保つため、引用・参考文献を挙げる際に「拙著」「拙稿」など執筆者の特定につながる語を用いないようにすること。

### (3) 表記

表記については以下の原則に従い、統一を図ること。ただし引用や参考文献の表記においては上記の限りではない。

・原稿の使用言語は原則として日本語(常用漢字・新仮名遣い)に限る。句読点は「、」「。」を用いる。

・年号は西暦を用いるか、嘉永6(1853)年のように、和暦と西暦を併記する。但し、同じ年が頻出する場合には西暦の併記を省略してもよい。

- ・外国の国名・用語・固有名詞等の表記については、原則としてカタカナ表記とするが、アルファベットでの表記および併記も妨げない。

- ・本文中の数字の表記は、原則として算用数字とするが、万・億・兆などの単位語を用いることは妨げない。

#### (4) 引用

- ・出典およびページ数を明記すること。出典の表記法は(5)に従うが、史料を引用する場合は、史料の特質および立論上の便宜を考慮してより適切な表記がある場合は、(5)以外の表記方法を妨げない。

- ・長文を引用する際は前後1行ずつ空け、引用文の全体を2字分インデントすること。

- ・外国語を引用する際には、訳文を併記すること。訳文のみの引用も妨げないが、その旨を注記すること。

#### (5) 脚注および参考文献

- ・脚注は各ページの下部に表示する。脚注の番号書式は半角数字を用いること。

- ・本文および脚注において参考文献を指示する場合は、(著者名 出版年: 10 (もしくは: 10-11)) という形で表記し、文末に引用・参考文献の一覧を記載すること。著者名と出版年の間と、コロンとページ数の間は半角あけること。直前に参照した文献を再び参照する場合は、(同: 10) などと省略すること。 例: (河原 2002: 25-26)

- ・引用・参考文献の一覧において各文献の著者名・発行年・書名・出版社名などの情報をどのような順番や表記で記載するかについては、各執筆者の判断に委ねる。

- ・著者が3人以上の文献については、筆頭の著者名のみを挙げ、○○ほか、とする。

- ・一般的ではない古典史料等については、執筆者の判断で所蔵先など必要な情報を記載すること。